

個別事業(取組)評価

事業No.	9	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革	
事業名称	学校改善プラン実践支援事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	17,432
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	25,552

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <p>平成22年度の全国学力・学習状況調査の結果から、高知県の学力の状況は、小学生は全国水準とほぼ同じ状況にあるが、中学生は全国水準を下回っており、小学校と中学校の学力の定着状況に格差があり、中学校での学力の落ち込みの改善が緊急の課題である。</p> <p>※ 平成22年度全国学力・学習状況調査 全国平均正答率との比較 小学校 国語 -0.1p 算数 0.0p 中学校 国語 -3.4p 数学 -5.9p</p>	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>平成23年度の標準学力調査(東京書籍)の結果も、左記の傾向とほぼ同様であり、現状を正確に把握できていたと判断している。</p> <p>※ 平成23年度標準学力調査 全国平均正答率との比較 小学校…国語 -0.6p 算数 0.7p 中学校…国語 -3.3p 数学 -2.9p</p> <p>特に中学校では、国語における「書くこと」、数学における「数と式」「図形」「数量関係」のすべての領域において課題がある。</p>
		<p>【要因】</p> <p>◆ 学力向上の組織的な取組体制及びPDCAサイクルの確立に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上の取組において、誰が(どこが)中心となって行うのか、明確になっていない場合がある。 ・ 取組の評価指標が教師側の取組になっており、児童生徒の変容を検証できる数値目標等が記載できていない。 ・ 短いスパンでの検証、改善の時期の設定が不十分である。 ・ 支援の必要な児童生徒への対応や、具体的な小中連携の対策が具体的でない学校がある。 	<p>イ 十分に特定していたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>各校から提出された「学校改善プラン」「検証シート」の記述や学校支援訪問を通じて学力向上に向けた学校のマネジメント上の課題を把握した。</p>
②	目標(Outcome)	<p>◆ 学校が作成した「学校改善プラン」に基づいた、学力向上のためのPDCAサイクルを確立させる。</p> <p>【目標数値】</p> <p>検証シートで「学力向上の具体的な到達目標」に記載された内容に対する評価に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標を実現していないC評価以下(予定したことを実施していないD評価を含む)とする学校の割合を小中学校10%程度にする。 平成22年度のC評価…11.4%(小学校)、12.5%(中学校) ・ 到達目標を実現しているB評価以上(到達目標以上に成果が上がっているA評価を含む)とする学校の割合を小中学校90%程度にする。 平成22年度のB、A評価…88.7%(小学校)、87.5%(中学校) 	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <p>本事業の効果をより客観的・実証的に測定するために、検証方法も含めて目標設定の仕方を再検討する。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <p>◆ 左記目標数値を達成することはできなかったが、設定した学校改善プランの目標を達成した学校数は昨年度より増加し、9割以上となっており、各校における学力向上のPDCAサイクルは確立されてきていると判断している。</p> <p>※ 目標を実現していない「C」評価以下の学校の割合:9.4%(小学校5.1%、中学校17.5%) ※ 目標を実現している「B」評価以上の学校の割合:90.6%(小学校94.9%、中学校82.5%)</p>
		<p>【検証(比較)方法】</p> <p>◆ 「学校改善プラン」の検証シート</p>	
③	実施内容(Input・Output)	<p>◆ 学校支援訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校重点支援校(36校)に年間8回以上、重点支援校以外の中学校に年間2回以上を目安に、中学校学力向上推進チームが訪問し、「学校改善プラン」に基づくPDCAサイクルが機能するように支援する。 <p>◆ 学力調査等の結果分析及び改善策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果の報告書等を作成・配付する。 ・ 調査結果等の活用に関する研修会の実施と、各校が自校の課題を改善するための実践及び計画を作成する。 	<p>オ 計画通り実施されていたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>◆ 学校支援訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点支援校への訪問…331回 ・ 重点支援校以外の中学校への訪問…154回 <p>◆ 全国学力・学習状況調査結果の分析及び改善策の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査結果の活用に関する研修会にて、各校における教科の課題について協議(9/6、11/1) ・ 全国学力・学習状況調査結果の分析及び改善策をHP、報告書で周知(2月)

総合評価と今後の方向	目標達成度	C	「No」を選択した項目	ウ・エ
	<p>【総合評価】</p> <p>学力向上における各校のPDCAサイクルが確立されてきたこともあり、本県の児童生徒の学力は着実に伸びてきたが、中学校の学力については、依然として全国水準を大きく下回っている状況であり、中学校に対する取組の強化が必要である。</p> <p>また、これまで積み重ねてきた学力向上のためのPDCAサイクルを活かし、学校経営力を向上させていく取組が重要である。</p> <p>【今後の方向】</p> <p>次年度からの学校改善プランについては、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指した「学校改善プラン」として再構築し、学校経営力の向上を図る。</p> <p>また、中学校学力向上プロジェクト校を各事務所管内3校、高知市8校とし、これまで以上にきめ細やかな支援及び授業研究を積み重ねていくことにより、確かな学力の定着を目指す。</p>			